

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4672100189
法人名	有限会社 一幸
事業所名	グループホーム みどりの郷
訪問調査日	平成20年7月29日
評価確定日	平成20年9月10日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	4672100189		
法人名	有限会社 一幸		
事業所名	グループホーム みどりの郷		
所在地	南九州市穎娃町上別府4627番地 (電話) 0993-28-2250		
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年7月29日	評価確定日	平成20年9月10日

【情報提供票より】(20年 6月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 600円	その他の経費(月額)	1日 500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800円		

(4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	75歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	みどりクリニック ひまわり歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

薩摩半島の南端に位置し広大な田園と海に面した自然に恵まれた場所にある。高齢化の進む農村地域のため、そのニーズに貢献したいという運営者の思いで開設されている。系列にはクリニックもあり、健康管理面での支援体制ができていたため、利用者、家族などに安心感を与えている。職員は明るく親身になったケアを心がけており、毎夕食後の入浴支援やホーム行事の際にプレゼントを職員が手造りするなど、これらの取り組みは本人家族などの喜びや信頼関係づくりにつながっている。ホームの周囲にゲートボール場や保育園・お寺・住宅などがあり日常的に地域住民と触れる機会が多く、地域密着型サービスの充実を目指し日々邁進している。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市担当者に(生活保護者の報告や入退去・トラブルなど)運営やサービスについて相談しながら関係作りを積極的に行っている。定期的な見直しと毎月一回モニタリングを行い、カンファレンス時に評価をして都度の見直しに活かしている。改善課題に取り組みサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に職員が自己評価に取り組み「ケアマネジメント」や「日々の支援」に対する職員のかかわり方の違いを(利用者の心身状況が異なるため)発見しケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は定期的に開催されている。委員全員の出席率を高める工夫を、という意見が出されて、参加者との連携をとり確実な約束をするなど密度の濃い協力関係ができて、サービスの質の向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や行事参加の際に職員は家族などと話す機会を作り意見を出しやすい雰囲気作り心がけている。ホーム便りの写真が小さいとの要望に対し、個人情報保護について説明し、各個別に写真を送付するなどの対応をして運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入しており地域の防災訓練や敬老の集い・夏祭りに参加している。町内の民生委員の方々の見学や研修の場としてホームを開放している。また近くの保育園開催の夏祭り・運動会に参加したり、ホームで収穫した作物をおすそ分けするなど交流は盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域で今までの生活を継続できるように、寄り添いながら生活できる理念を職員の意見を集約して作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホールに明示している。管理者は勉強会時に理念を生きた方針として語っている。職員は理念を共有しながら日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の防災訓練や敬老の集い、夏祭りなど参加している。町内の民生委員の見学や研修の場としてホームを開放している。また近くの保育園開催の夏祭り・運動会に参加したり、ホームで収穫した作物のおすそ分けなど交流は盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎に職員が自己評価に取り組み「ケアマネジメント」や「日々の支援」に対する職員の関わり方の違いを(利用者の心身状況が違うため)発見しケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。自己評価を行う事により全職員間の共通認識が高まりケアに活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されている。委員全員の出席率を高める工夫をという意見が出されて、参加者との連携をとり、密度の濃い協力関係ができて、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に(生活保護者の報告や入退去・トラブルなど)運営や、サービスについて相談しながら関係作りを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に発行しているホーム便りや電話・来訪時に日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は立替払いである。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事参加の際に職員は家族などと話し合いの機会をつくり、意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。ホーム便りの写真が小さいとの要望に対して、個人情報保護について説明し、各個別に送付するなどの対応をして運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけており、職員は全利用者に関わりをもっている。やむをえない異動の場合はダメージを受けないように十分な説明をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じた研修に参加しており、月一回の職員会議で研修報告をしている。また、定期的に課題を設けて勉強会を行い、職員の技術や知識の向上に努めている。資格取得に積極的な職員に支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のスタッフ研修会に参加している。また、他グループホームの相互訪問や意見交換などを行い、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には本人と面談したり家族や主治医などから生活状態、心身状態、思いや不安を十分に聞いている。なじめるように見学や説明をし信頼関係を築き不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添い、「その人らしく」を大切にしながら一人ひとりの得意とする(農作業・調理・季節行事のしきたり・戦争体験談・昔話)事などしてもらい中で教わったり、お礼の言葉に励まされながら支えあっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の表現は口頭で表現したり行動や表情で表現している。見守りとコミュニケーションに心がけ思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴、希望を把握し、家族などの思いを聞きカンファレンスで職員の気づきや意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から半年の見直しをしている。毎月モニタリングを行い、カンファレンス時に評価をして都度の見直しに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族などの状況や要望に応じて病院受診や墓参り、自宅訪問、お悔やみやお見舞いなど必要な支援に柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して家族・医師・看護師を交えて話し合い職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められて家族などの同意書も作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時に個人情報保護について誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安眠や休息・起床・食事・入浴・レクリエーションなどその人の心身の状態に留意しながら本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で収穫した季節野菜の下ごしらえ、配膳、下膳などできる事をしてもらい、職員も一緒にサポートしながら楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎夕食後できるように、職員のローテーションを組んでいるため、利用者や家族などに喜ばれている。また、シャワー浴や清拭もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業・体操・パズル・カレンダー作り・季節行事の工作や折り紙など利用者の趣味や特技を發揮できるようにしている。また、ドライブや温泉入浴、季節行事に参加するなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩・買い物・ドライブに行ったり、隣接されている集落のゲートボール場の見学や季節行事の見学に出かけて閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解している。プライバシーに配慮しながら見守り、安全に自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回昼間・夜間想定した避難訓練を行っている。出火場所を想定した避難訓練と避難場所を決めている。地域住民参加の災害訓練を行う準備もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックして一人ひとりの摂取量を把握している。身体状況に合わせてトロミやキザミ食など取り入れている。栄養バランスは栄養士のアドバイスによる献立である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は天窓があり、明るく清潔で換気良く音や家具の配置・季節行事の装飾や生花など工夫が行き届き利用者は穏やかに過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌・衣装ケース・時計・家族写真・ぬいぐるみ・枕やタオルケット毛布など使い慣れた物品が持ち込まれている。またタタミを敷いたり、居室入口に花の名前を揚げて目印とするなど工夫し、居心地良く過ごせる居室となっている。		